

第2号議案 2021年度事業計画案および収支予算案

I. 2021年度事業計画案（令和3年3月1日～令和4年2月28日）

学会活動の活性化・会員へのサービス向上と健全な学会財政の維持に配慮して、本学会の設立目的の達成に必要な事業を進める。一方、2020年度事業の実施に影響を与えたCOVID-19の収束が見通せない状況で、オンラインシステムの利用などにより、学会活動に必須なディスカッションを確保するための工夫が重要になると考えられる。

そうしたなかで、従来からの事業に加え、学会の将来を担う若手会員の育成強化、学会創立100周年に向けた準備、東日本大震災から10年の節目となる事業を計画し、取り組んでいく。

1. 定期刊行物および資料の刊行

日本土壌肥料学雑誌（第92巻第2号～第6号および第93巻第1号の計6冊、A4判）、SOIL SCIENCE AND PLANT NUTRITION (Vol.67, No.2～No.6, Vol.68, No.1の計6冊、A4判)を刊行する。また、2021年度北海道大会に際して日本土壌肥料学会講演要旨集（第67集）を電子版として刊行する。

2. 講演会および研究会等の開催、支援

1) 「土と肥料」の講演会

2021年5月22日（土）、総会終了後に、日比谷図書文化館において「土と肥料」の講演会を開催する。テーマを「東日本大震災10年：被災農地の復興における土壌肥料学の貢献」とし、講演者と演題は、西田瑞彦氏「東日本大震災津波被災水田の復旧と復興」および信濃卓郎氏「東京電力・福島第一原発事故による放射性物質の農地汚染とその対策」である。なお、本講演会は日本学術会議の後援を得て実施する。

2) 東日本大震災から10年の記念講演会

2021年11月5日（金）、パルセいいざか（福島県飯坂町）において日本土壌肥料学会シンポジウム「原発事故から10年—これまで・今・これからの農業現場を考える」を、信濃卓郎北海道大学教授を大会委員長として開催する。

3) 2021年度年次大会

2021年9月14日（火）～16日（木）、北海道大学高等教育推進機構（一般講演、シンポジウム、学会賞等授賞式・記念講演）において年次大会を開催する。新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、従来通りの対面式およびオンラインのハイブリッド形式で実施する。学会賞等授賞式および受賞記念講演は15日（水）に行う。また、若手口頭発表優秀賞および若手ポスター発表優秀賞の表彰を行う。

シンポジウムのテーマについては、従来と同じく会員に公募し、これを基に部門長会議で検討して設定する。

学会賞等授賞式では、第 66 回日本土壌肥料学会賞 3 名、第 26 回同技術賞 1 名、第 39 回同奨励賞 1 名、第 10 回同技術奨励賞 3 名に各賞を授与する。また、各賞受賞者の記念講演を行う。論文賞 2 件および SSPN Award 1 件の受賞者については、各賞を授与するとともに、受賞記念ポスターを展示する。受賞記念講演に引き続き特別講演（日本農学賞受賞者、IUSS 会長）を行う。

第 66 回 日本土壌肥料学会賞受賞者

- ・林 健太郎：土壌を要とした窒素の環境動態および人間圏フローの研究
- ・樋口 恭子：オオムギを中心とした植物の包括的アルカリ耐性機構の研究
- ・和崎 淳：低リン耐性植物の根分泌物による難利用性リン可給化機構に関する研究

第 26 回 日本土壌肥料学会技術賞

- ・宮丸 直子：サトウキビの安定多収に向けた土壌改良技術の開発と普及啓発

第 39 回 日本土壌肥料学会奨励賞受賞者

- ・原 新太郎：土壌植物系における窒素・リンの動態に関わる微生物の研究

第 10 回日本土壌肥料学会技術奨励賞受賞者

- ・大家 理哉：水田における家畜ふん堆肥施用時期を考慮した施肥設計技術の確立
- ・塩野 宏之：積雪寒冷地水田からの温室効果ガス削減と水稻生育改善技術の開発
- ・山根 剛：家畜ふん堆肥ペレット施用後の一酸化二窒素発生制御に関する研究開発

日本土壌肥料学雑誌論文賞受賞者

- ・井上 弦、中尾 淳、矢内純太、佐瀬 隆、小西茂毅：京都府宇治市の茶園土壌を用いた覆下栽培の発祥時期の推定
- ・郷内 武、藤田 裕、佐野智人、大浦典子、須藤重人、朝田 景、江口定夫：黒ボク土ナシ園における豚糞堆肥を活用した代替施肥による大気圏および水圏への窒素負荷軽減効果

SSPN Award 受賞者

- ・Kazunobu Toriyama, Taku Amino, Kazuhiko Kobayashi: Contribution of fallow weed incorporation to nitrogen supplying capacity of paddy soil under organic farming

4) 支部大会等

- ・北海道支部：2021 年度秋季支部大会・支部総会(11 月下旬～12 月上旬、札幌市の予定)および第 24 回日本土壌肥料学会北海道支部野外巡検(時期・場所未定)を主催する。
- ・東北支部：2021 年度東北支部大会および支部総会を開催する(6 月～7 月 場所未定)。
- ・関東支部：関東支部大会、支部幹事会および支部総会を開催する(11/27、千葉大学松戸キャンパス)。
- ・中部支部：第 82 回中部支部総会、第 101 回支部例会を開催する(11/15～16、岐阜市)。また、第 166 回支部評議員会(5 月 名古屋市内)、第 167 回支部評議員

会（11月中部土壌肥料研究会と同時開催 岐阜市）を開催する。

- ・ 関西支部：関西支部講演会（12月初旬 高知市）および支部役員会（講演会の翌日）を開催する（日程、会場は未定）。
- ・ 九州支部：2021年度九州支部例会、2022年度支部賞選考委員会、2021年度支部常議員会並びに支部総会を開催する（8～9月 沖縄県）。

3. 研究の奨励および研究業績の表彰

定款および細則に基づき、第67回日本土壌肥料学会賞、第27回同技術賞、第40回同奨励賞、第11回同技術奨励賞、第11回同貢献賞、日本土壌肥料学雑誌論文賞、SSPN Award など顕著な業績を挙げた者を表彰する。

4. 内外の研究者、技術者、他学会等との連絡および協力

定期刊行物の国内外との交換、国内関連学会等と共催の研究討論会等を行い、学術交流・国際交流の強化を図る。

- ・ ESAFSサポートオフィスを通じて関連情報を発信する。
- ・ 塩性土壌の修復に関する国際会議（中国・長春）へのIUSS前会長出張の支援（5/10～12）
- ・ 2020年度IUSS Distinguished Service Medal受賞者（オーストリア元環境相Dr. Fischler）の授賞式・シンポジウムへのIUSS前会長出席の支援（2021. 8）
- ・ Laura Reyes-Sanchez IUSS会長の北海道大会への招聘（記念講演、9/14～16）
- ・ 第6回土壌分類に関する国際会議（ICSC：メキシコ・ケレタロ）への担当者派遣（10/14～22）
- ・ 日本地球惑星連合（JpGU）2021年連合大会セッション（5/30～6/1 現地開催、6/3～6 オンライン開催）を共催する。
- ・ 第31回環境工学総合シンポジウム（7/8～9）を協賛する。
- ・ 第58回アイソトープ・放射線研究発表会（7/7～9オンライン開催）を協賛する。
- ・ 2020年酸性雨国際会議（Acid Rain 2020、新潟、2022. 3/1～4）を共催する。

5. 本学会の委員会等活動

- ・ 企画委員会：総会終了後に開催する「土と肥料」の講演会を企画する。また、「国際土壌の10年」に関連した事業を企画する。
- ・ 土壌教育委員会：①北海道大会において高校生による研究発表会を実施する（9/14～16）。②教員研修およびその他の普及事業を行う（8月 場所未定）。
- ・ 財政基盤整備委員会：引き続き支出の削減に努めるとともに、積極的に収入の拡大策を検討し、収支バランスの改善を図る。
- ・ 広報：①学会ホームページのさらなる改善を図る。②フェイスブック等による情報発信の活性化を図る。③土壌教育委員会とともにエコプロ 2021 にブースを出展する（2021.12）。

6. その他、本学会の目的達成のための事業

- ・ 外部からの顕彰および研究助成の推薦依頼に対応する。
- ・ COVID-19 の状況に配慮しつつ、規程に基づき、若手正会員及び学生会員の海外学会参加渡航費またはオンライン開催される国際学会参加登録費の一部を支援する。
- ・ 各理事担当の年間業務を整理し、円滑化を図る。
- ・ 学会創立 100 周年へ向けて基金の積み立てに向けて取り組む。